

数学

<全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

近年は方針が立てやすく、かつ分量も控えめな解きやすい問題が数問用意されていたが、今年度は姿を消した。③は、方針は立てやすいが見た目ほど易しくない。全体に分量もかなり増えたので得点の取りにくいセットと言えよう。

出題の特徴や昨年との変更点

幅広い分野から出題され、レベルが高い。整数と確率は例年出題され、空間図形の問題も出題頻度が高い。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	数学と人間の活動 (整数) 数列	数学A 数学B	n の正の約数の個数 $d(n)$ に関する問題。(1)は例年同様、年度にまつわる出題で、 $d(2025)$ であった。(3)では、 $d(n)/\sqrt{n}$ の最大値を求める。素因数分解表示を考えて(2)のヒントを利用したい。	難
②	図形と方程式	数学II	(1)は2円が2点で交わる条件を求める。(2)は共通弦について対称な点Qの軌跡を求める。今年度の中では最も完答しやすい問題。	標準
③	微分法 積分法	数学II	「絶対値を含む関数の積分」で表された方程式に関する問題。場合分けして積分を計算するところまでは容易だが、その後の扱いが面倒。	やや難
④	空間ベクトル	数学C	2つのパラメータで表された点の領域をまず求める。1文字固定が原則だが慣れてないと難しく感じるだろう。	標準
⑤	確率 数列	数学A 数学B	線分で結ばれた5点A,B,C,D,Eについて、ある規則のもとに点を順次定めていくとき、 n 回目にAまたはBとなる確率を求める。 n の偶奇で分けて漸化式を作ることに気づけるかがポイント。(2)は条件付き確率。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

一橋大の問題は設定がシンプルなものが多いが、誘導が少ない分、確かな実力が必要である。典型的な問題を理解しマスターしたうえで、過去問の演習によって思考力・計算力も鍛えよう。また、かなり難しめの問題も出題される。初見の問題に対しても方針を立てられるようになるために、良問を考え抜く勉強もしたい。